
16回目のクリスマス

紅 恋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

16回目のクリスマス

【Zコード】

N4192P

【作者名】

紅恋

【あらすじ】

クリスマス・・・それは俺にとっての嫌な行事
勝者と敗者がはつきりと見せつけられ
勝者には楽しい時間が
敗者には惨めな時を

送られる

そんないやな日それが俺にとってのクリスマスだった

16回目の1-2月25日それは俺にとっての最悪な日だった。

目の前に幸せそうな笑顔をしたカップルが通り過ぎる。

「失敗した・・・」

学校でも家でも嫌な事しか考えられなかつたから
気分転換にと、街に出てみたが、いつも目の前で見せつけられると
より、気分が暗くなる。

俺だつて、好きでクリスマスに一人でいるんじゃないつーの
本当は、学年でトップクラスで可愛い橘さんとデートでもしたか
つたさ

”彼女”だつたらな・・・

そういうしている間に広場に行き着いた。

そこには、巨大なツリーが色鮮やかに飾り付けされ
注目を浴びていた。

「きれいだな・・・」

ツリーは神秘的で幻想的な美しさを放っていた。
その光は、俺の心の隙間を刺すように輝いている

「寒い・・・な」

ベンチに座り、買っておいたコーンポタージュを飲んでいると、空から、白い雪が降ってきた。

「珍しいな、この地域に振るなんて・・・」

雪が降るなんて何年ぶりだらうか・・・

こうして16年目のクリスマスはホワイトクリスマスになつた・・・

雪が降ってきた事で寒さが増した感じがした

俺はジャケットの襟に首をすぼめながら、缶を持つ、確かあそこの角にゴミ箱があるはず・・・そんな事を考えていた俺に女人の声がかかる。

「あの・・・すみません」

ん?カメラで撮つてくれとかかな?

「なんで・・・す・・・か?」

田の前には橘さんがいた。

なんでこんな所に橘さんが!?

混乱した俺に橘さんはさりに俺を混乱させた。

「あの、裕樹君に聞いてほしい事があるんだけど」

俺の名前を覚えてくれてたんだ・・・

「な、何でしょうか

「裕樹君、私とつき合ってくださいー。」

「へ?」

このお方はなんとおしゃったのか?つき合ってください?俺と?

様々な疑問が瞬時に思い浮かぶ、がやはり結論は一つ

「俺で、良ければ喜んでお願ひします」

俺たちは手をつなぎ歩き出す。

聞いた話によると、前から橘さんは俺の事が好きだったらしい
友人に何度も相談した結果、クリスマスに告白・・・という事にな
つたらしい

こうして

俺の1-6回目、1-2回2-5回は最高な日になつたのである

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4192p/>

16回目のクリスマス

2010年12月11日00時55分発行